



5355

官許
琵琶湖新聞

明治六年第五月

第七號



定價三錢五厘

西垣文庫
文庫 10
7374
7



特 文庫10
7374
7

緒言

新聞ノ徳タルヤ大ナリ内知見ヲ闕キ外事業ヲ施シ
不知不識文明ノ域ニ進ミ開化ノ室ニ入り上下言路
ヲ通シ勸懲善惡ヲ判ス故ニ
官許シテ天下ニ公ニスル所以ナリ庶幾ハ四方ノ君
子上公裁ヨリ下俚言ニ至ルマデ縷々記載シ吾社ニ
投入シ玉ハンコヲ是今日ノ必務ニシテ開明ノ徳ニ
報ズル所以ナリト爾云

新報文庫



琵琶湖新聞第七號

○東京府下深尾儀兵衛獅々飛開鑿ノ建言
大藏省エ相廻候処同省ヨリ回答如左

深尾儀兵衛建白獅々飛開鑿ノ儀ニ付御掛合ノ趣致
兼知候然ル処右ハ既ニ去夏土木寮官負出張和蘭水
理工師ヲモ一同檢査為致候節粗疏鑿運河ノ見込モ
有之候エドモ琵琶湖平水面ト大阪海口面ノ差二百
四十尺就中伏見マデノ高低甚シク假令疏鑿ノ業ヲ
施シ候トモ奏功ノ程尤モ無覺束且洪水ノ節暴漲下
流ニ及ビ其害不少双岸ノ堤防修築ノ費用亦莫大ニ

可有之左候時ハ湖邊干瀉ノ新田多少相開ケ候トモ
利害得失如何可有之歟多年研究ノ上ナラデハ見込
未相立即今容易ニ着手難相成次第ニ付右建言ハ先
御採用無之段御達シ有之可然ト存候仍テ書類返達
此段御回答ニ及ビ候也

明治六年四月十二日 大藏大輔井上馨

左院御中

以上左院録事日新真事誌ヨリ抄出

○三月廿三日當滋賀縣ヨリ教部省エ伺ニ吾邦上古
獸肉ヲ以テ神饌ニ供シ上下一般相用候例證モ有之

候処中世以来諸神社大方コレヲ禁ズルノ弊習ト指
成獸類ノミニアラズ鶏卵等モ相用ヒズ自今神饌ニ
用ヒ候テモ憚ラザル儀ニ候哉ノ旨管内諸神社ヨリ
追々伺出候右ハ神饌ニ供シ候儀ハ勿論肉食一切憚
ルニ不及段相達シ苦シカラズヤ上陳ノ処伺ノ通り
憚ルニ及バザル旨指令ニ成リタルト云フ

○粟太郡第七區伊岐代神社ハ十五ヶ村ノ氏神ニシ
テ其地續キ片岡村芦浦村互ヒニ地元ヲ爭論シ戊辰
以来當縣管下ノ一難件ナリ去壬申秋現在境外上地
ノ今御拂ヒ下ゲノ節前論イヨク沸起シ両村互ヒニ

競フテ不適ノ地價ヲ投票シ一撮ノ土ソノ直ヒ連城
ニ比スルノ説アリ固執モ亦甚ダシト謂フベシ去月
十六日當縣大屬中村氏實地ヲ檢査シ之ヲ解シテ曰
上地ノ今ハ十五ヶ村へ地券ヲ受クベキハ素ヨリ無
論ニシテ汝兩村啄ヲ容ルノ理ナシ地元決定ノ後ハ
自今兩村各總代一員ヲ祠前ニ出シ以テ汝ノ衷情ヲ
告訴シ闡ヲ探リ決ヲ神慮ニ取ルベシ鬼神ノ測ルヘ
カラザルモ汝丹心豈コレヲ享ケザラン若夫レ得ル
ト得ザルトハ則チ神慮ノ響フトコロ又誰ヲカ憾ミ
ンヤト兩村大ニ了解シ忽チ既往ノ矇昧ヲ悔悟シテ

曰ク即今始テ醒ノ醒ルガ如シト齊シク謝シテ退キ
前日ノ投票ヲ願ヒ下ゲ速カニ日ヲトシテ闡ヲ探リ
地元終ニ片岡村ニ決スト嗚呼盤根錯節中村氏ノ利
器ニ逢フ真ニ大幸ヲ得タリトイヘドモ兩村悔悟ノ
速カナルモ亦賞スルニ足レリ方今地畧ニ付僻論ヲ
固執シ比鄰相仇視スルノ俗此舉ヲ聞キ自ラ省ン
ヲ企望ス

大津川口町

甲兵衛妻

今井とき

其方儀花合カブ繪賣渡シ候科違令律ニ依リ收贖金

一兩官納申付候事

明治六年三月

滋賀縣令松田道之代理

滋賀縣參事神原豐

大津石河町

市兵衛妻

前田ふゝ

○
其方儀大石甚七エカル夕繪貸渡シ候科違令律ニ依
リ收贖金三分官納申付候事

明治六年三月

滋賀縣令松田道之代理

滋賀縣參事神原豐

伊勢國安濃郡雲林院村

嘉藏弟

杉谷嘉四郎

○
其方儀博奕場へ立入金子貫ヒ受ル科違令律ニ依リ
答三十申付候事

明治六年三月

滋賀縣令松田道之代理

滋賀縣權參事籠手田安定

滋賀郡北比良村

戸長 堀口三郎重門

副戸長 高山十三郎

同 澤傳七

其方共儀今般地券改正ニ付官負出張經界杭打立候

節官員不正ノ取計方可有之ト疑心ヲ懷キ出張官員
ヲ閣キ出許ニ及ブ科越訴律ニ依リ贖罪金六兩申付
候事

明治六年三月十六日 滋賀縣令松田道之代理

滋賀縣權叅事籠手田安定

○被髮ノ益アル人々當ニ感悟シ方今縣下十ノ八
九ニ至レリ然ルニ此頃斷髮シテ再ビ其半髮ヲ刺シ
蜻蜒鬚同等ノ醜体ヲナスモノ枚舉ニ遑アラズ元來
髮ヲ斷リ帽ヲ戴クハ獨リ身體保護ノ為ノミナラズ
今日開化ノ一助ニシテ必ず注目スベキ処ナルニ斯

ノ如キ奇僻ノ風ヲナスハ豈歎ゼザルベケンヤ我レ
默視スルニ忍ビズ故ニ今貴社ニ托シテ半髮ノ諸君
子ニ忠告ス 右投書

○一千八百七十三年三月廿七日橫濱新聞紙ニ曰ク
英國ノ或ル農夫田園ニ野兎來リテ妨害ヲナシ之レ
ガ為ニ大ニ收納ヲ失ヒ彼ノ農人之レヲ歎クト雖モ
敢テ之レヲ拒グノ術ヲ工夫セザルハ其智ノ足ラザ
ルナリ米國ニ於テ和蘭苺ヲ取ルニ鳥ヲ威シ以テ其
妨害ヲ拒グノ工夫ヲナシ大ニ農人ノ助ケヲナセリ
此ノ工夫ハ苺畦ニ於テ針金ヲ亘シ之レニ附スル環

ヨリ又針金ヲ以テ猫ノ首輪ニ繫ギ以テ猫ノ容易ニ進退シテ小鳥ヲ威スコトヲ要シタリ又茲ニ箱或ハ樽ヲ置キ以テ猫ノ部屋トナシ常ニ此中ニ在テモ其ヲ見張リテ小鳥ノ妨害ヲ能ク拒グト云フ

○一千八百七十三年四月三日橫濱新聞紙ニ曰ク把里斯ニ於テ水中ヲ運用セン為メ工夫ヲ以テ魚ノ形ニ舟ヲ造リ之レヲ試験シタリ此舟ハ(カチヤロツト)ト称スル一種ノ鯨ノ形ニ倣ヒテ造リタル物ニシテ其長廿九ソ十五ブートアリ彼ノ鯨ノ皮ヲ以テ舟ノ外部ヲ覆ヒ鰭及ビ尾ノ如キ器械アリ其働キ甚ダ巧

ニシテ水底ニ下リ或ハ浮ク或ハ直行スルヲ自在ニシテ少シモ舟人勞スルヲナシト此舟玻璃ニ枚ヲ付テ鯨ノ眼目ノ如クニ造リ此玻璃ヨリ舟内ニ明ルヲ取り又舟ト水上ニ浮マセタル筏ニ(キユタルヤ)ト云ヘル物ヲ以テ造リタル長キ管ヲ付ケ此管ヨリ舟内ニ空氣ヲ流通ナスト言フ

○東京新聞ニ今般鏡道寮七等出任小野友五郎同技術方山下省ニ同行中仙道筋鏡道線路測量トシテ浴道縣々エ出張ノ音山尾工部大輔ヨリ布達ナリシト漸々鏡路縱横ニ懸架スルニ至ラバ獨リ政府ノ便宜

ノミナラズ中外人民從テ其澤ヲ被リ其益尠ナカラズ實ニ我國富强ノ大基礎タル美華豈ニ愉快ノ景況ナラズヤ

○長崎新聞ニ曰ク同所福屋某ニ養ヒ置ル犬病症ニヤ狂犬トナリ近隣ナル十五支ノ小女ニ噛付大ニ傷ヲナシケレバ飼主驚キ直ニ医療ヲ周旋シソノ父ト俱ニ彼是レ患者ヲ助ケント苦辛シケレド医モ難症ヲ告ゲ敢テ我が及ブトコロニ非ズト故ニ病院ニテ治療ヲ願ヒシカドモ天命ニヤ病ヒ次第ニ增長シ忽チ歿スセシカバ父ノ悲歎カギリナク福屋モ大ニ之

ヲ傷シ三日ノ間家業ヲ廢セリト爰ニ魯國水師提督五六人ノ士官ト共ニ福屋ニ食夏セント来リシニ休業セシカバ其故ヲ問フ因テ主人委細ヲ告グ士官之ヲ聞テ福屋ノ深切ナル所為ヲ感ジ且ツ其犬ヲ問ニ斯ク病犬マタ他人ヲ害センコトヲ恐レ殺害セント士官歎ジテ魯國ニテモ屢アルコトナレドモ犬價高貴ナレバ殺ス者少ナシ茲ニソノ噛傷ヲ療スル奇法アリ幸ヒニ今之レヲ教ヘン

毛語明言 第一一號

人如シ病犬ニ噛ルハトキハ即時ニソノ犬ノ毛ヲ切り取りコレヲ燒テ燼灰トナシ針ヲ以テ彼ノ傷

所ヲ刺テ其跡ニコノ灰ヲ散布スベシ而シテ金巾
等ヲ以テ能ク傷ヲ縛シ置クトキハ終ニ激衝ノ憂
ナシ魯國ニテハ之ヲ用ヒテ屢功アリ

右奇法ハ未ダ我國ニテハ經驗セシナケレバ魯國
士官ノ深切ニ教ヘシナレバ何ゾ之ヲ疑ハンヤトテ
福屋主人此法ヲ廣告センコトヲ要ストアリ

○偶題

一自天戈鋌險途 四民協力仰英謀
神威如護文明客 佛教聊存固陋軀
攝港繁華欺馬府 東京壯麗壓龍都

近來不說鎖攘事

無復書生迂濶徒

右當國栗田郡第四區蜂谷村某ノ投書此詩ヲ見テ人々東京浪華ノ繁華日新開化ノ風致ヲ推知スベシ

本月五日午前一時宮内省ヨリ出火 皇城燒失

聖上 御機嫌能赤阪離宮ニ 御立退

同四日午後二時本郷追分邊出火四五丁程類燒五日
晚七時頃第一大學區医学校出火ノ趣電信郵便等ニ

テ報知有之候事

琵琶湖新聞第七號終

澁紙 一地券大帳

附リ張紙用美濃紙

賣捌所

出店

大津湊町北側

清水宗八方エ

右者今般地券御編輯ニ付一般編輯用且ツ永世保全ノ御品ニ候間其物品最モ掉ヲ撰ミ勿論製造方注意シ極メテ低價ニ基キ調進可致候間各貴村右ノ所エ来リ玉フテ買得シ給ハンコヲ更ニ冀フノミ

神崎郡第三區
本庄村住

田口景久

明治六年五月

伏テ四方ノ君子ニ敬白ス既ニ官訂ヲ蒙リ局ヲ開キ新聞ヲ刊行レ選カ邑僻マテモ擴メ遠近日新ノ風況ヲ告ゲ俱ニ開化文明ノ域ニ進マンコトヲ希望ス雖然耳目ノ届ガザル多シ願クハ小大トナク事實書綴リ本局又ハ所々出局取次所等へ出シ玉へ次第ニ出版致スベシ但遠路ハ殊ニ報知ヲ希フ其書付ニハ何レモ其住所姓名ヲ載セ玉へ無名ノ書ハ敢テ採入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ル

總テ望ニヨツテ出版スル事件大略

- 諸會社ニテ取扱ノ品々出入數量○物價ノ高低○新規發明ノ器械
 - 諸開店ノ披露○田園山林家邸舟車等ノ賣買貸借○失物尋物
 - 觀セ物集會等ノ披露○諸藝私塾開業ノ披露○諸產物家具食品藥劑等一切ノ賣買○金銀貸借
- 右ノ外總テ世間ニ弘メ人ニ知ラシメントノ事情ハ何レモ一行廿二字價三錢ニテ引受出版致スベシ

本局

近江國大津船頭町

琵琶湖新聞會社

大津濱通
原田

五郎助

大津京町
古川

伊助

彦根桶屋町

高田

平三

長濱

田邊

耕平

鳥井本

平十郎

八幡町

木村

源造
取

八日市

福原郡左衛門

愛知川

中田

清次郎

日笠町

上林嘉右衛門次

守山

草津

田中平右衛門

水口驛

伏木八郎兵衛所

本堅田

北村

清十郎

大溝

三矢 治兵衛

石部驛

小嶋金左衛門

海津

金谷

平三郎

出局

賣弘所

